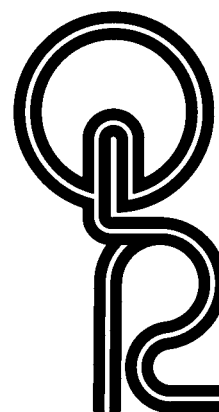


QR Newsletter

第四紀通信

Vol. 23 No.2, 2016



2015年学会賞・学術賞受賞者講演会にて登壇する小池裕子会員
(2016年1月30日、東京大学本郷キャンパス)

Vol. 23 No. 2

April 1, 2016

2016年大会案内(第3報)..... 2	ジオパークシンポジウム案内..... 7
地球惑星科学連合2016年大会プログラム..... 3	評議員会議事録..... 8
学会賞・学術賞受賞者講演会報告.... 6	組織改革委員会議事録..... 16
QI日本特集号オープンアクセスのお知らせ..... 7	幹事会議事録..... 18
	会員消息..... 20

◆日本第四紀学会 2016年大会案内（第3報）

本大会は、日本第四紀学会 60周年記念シンポジウム「第四紀学の新しい展望：現状と課題」を中心に開催いたします。新たに設けられる5領域における展開と、領域間での連携をご議論下さい。一般研究発表として口頭発表・ポスター発表も募集しますが、講演内容によってはシンポジウムでの発表をお願いする場合もございますので、ご承知おき下さい。

1. 開催日程

2016年9月17日（土）～9月20日（火）

- 9月17日（土）評議員会・シンポジウム・ポスター発表
- 9月18日（日）総会・シンポジウム・ポスター発表・懇親会
- 9月19日（月、祝日）口頭発表・シンポジウム
- 9月20日（火）巡検
（シンポジウムと巡検の詳細は6月号で案内します）

2. 開催場所

千葉大学 西千葉キャンパス・けやき会館（千葉県千葉市稲毛区弥生町 1-33）
問い合わせ先：大会用 E-mail アドレス：jaqua.event (at) gmail.com
（送付の際には (at) を @ に変えてください）

3. 発表の申し込み

1) 発表者の資格と発表件数の制限

一般研究発表には口頭発表とポスター発表があります。筆頭発表者は本学会の会員に限ります。口頭およびポスターではそれぞれ1人1件の発表が可能です。

2) 発表の形式と発表時間

発表申し込み時に、口頭発表かポスター発表か、もしくはどちらでも良いか希望をうかがいます。発表の申し込み件数によっては必ずしも希望の発表形態にならない場合もあります。あらかじめご了承下さい。口頭発表の時間は質疑応答時間を含めて1件15分程度を予定しています（発表件数によって変更の可能性あります）。十分な説明や討論を希望する方にはポスター発表への申し込みをお勧めします。またポスター発表者には、ポスターの前で説明するコアタイムを設ける予定です。

3) 発表申し込みと講演要旨の送付方法

一般研究発表の希望者は、日本第四紀学会ホームページ（<http://quaternary.jp/index.html>）からファイルをダウンロードし、必要事項を記入の上、以下の案内に沿ってお申し込みください。ファイルは、2016年大会サイトの「発表申込書」と「講演要旨の原稿」にリンクがあります。

- ・発表申込書と原稿は添付ファイルとして専用のアドレス [jaqua.event \(at\) gmail.com](mailto:jaqua.event@gmail.com) に送付してください（at を @ にかえる）。メールの題名は「発表申込_筆頭発表者名」、添付ファイル名は「講演要旨_筆頭発表者名」としてください。2件申し込む場合は題名の後ろに A、B をつけて両者を区別して送信してください。
- ・講演要旨の原稿は A4 で 1 ページ（図表掲載可）です。2016年大会ウェブサイトの「講演要旨原稿の書き方及びテンプレート」にある書き方にそって作成してください。
- ・手書きによる原稿、および郵送による投稿の方は上記専用アドレスにお問い合わせください。
- ・申し込みと講演要旨原稿の締切り 6月30日（木）（締め切り厳守）。

4. 若手・学生発表賞へのエントリー

本会会員で39歳以下（2016年8月1日時点）の方は、若手・学生発表賞にエントリーすることができます。エントリー希望の方は、申込書の該当箇所に記入して下さい。積極的なエントリーを期待しております。

5. 知的財産権に関する講演要旨執筆上の注意点と同意の方法

発表申し込みの際には、次に示す「講演要旨執筆上の注意」を熟読の上、その内容を理解し、遵守するようお願いいたします。このことについての同意の意思表示は、申込書該当欄に氏名を記入（入力）することで成立することとします。

・講演要旨執筆上の注意

2016年3月現在、講演要旨の著作権につきましては、厳密な規定がありません。そこで、現段階では基本的には発表者の方に著作権があるものと判断します。一方、昨今の知的財産権をめぐる情勢から見て、送付いただいた講演要旨に図の転載許可が得られていないものや、文献の引用が不十分なものがあると、問題が生じる可能性があります。従いまして、以下の点についてご注意の上で執筆下さるようお願いいたします。なお、これらに照らし合わせて問題があると判断された講演要旨原稿については、原稿受付後であっても再提出を求める場合があります。

- 1) 既存の出版公表物などに対する知的財産権へのいかなる侵害も含まないこと。
- 2) 他から転載されている全ての図表について、転載許可を得ていること。
- 3) 他の論文等の引用がある場合には、当該文献を全て明記する。引用形式としては、「竹内ほか(2005)第四紀研究, 44, 371-381.」などのように、引用箇所が判別できる限りにおいて簡略化して構わない。
- 4) 日本第四紀学会の名誉を傷つけ、第四紀研究の信用を毀損する盗用データ、捏造データ、その他、当学会の倫理憲章に反するものを含まないこと。
- 5) 講演要旨についての問い合わせ、苦情、紛争などが発生した場合、発表者はすべての責任を負うこと。

◆日本地球惑星科学連合 2016年大会プログラム

今大会は過去最多の4200件を超える発表が予定され、AGUとのジョイントセッションが始まります。皆様の積極的な参加を期待しています。

- ・期日：2016年5月22日(日)～5月26日(木)
- ・会場：千葉県 幕張メッセ国際会議場・国際展示場 / APA ホテル東京ベイ幕張
- ・大会詳細：http://www.jpгу.org/meeting_2016/information.html
- ・早期参加登録締切：5月10日(火) 17:00

■第四紀関係オーラルセッション (一部抜粋)

日時 * [セッション記号] セッション名 (会場)

*AM1=9:00～10:30 AM2=10:45～12:15 PM1=13:45～15:15 PM2=15:30～17:00

太字は第四紀学会開催(主催・共催)セッション、下線はPAGES関連セッション

- 5月22日 PM1+2 [H-CG26] 堆積・侵食・地形発達プロセス (105)
- 5月23日 AM1+2 [H-SC16] **人間環境と災害リスク** (105)
- 5月23日 AM1+2, PM1 [H-GM01, 14] Geomorphology, 地形 (301B)
- 5月23日 AM1+2, PM1+2 [S-SS31] **活断層と古地震** (International Conference Room)
- 5月23日 PM1+2 [M-IS17] 古気候・古海洋変動 (A04)
- 5月24日 AM1+2, PM1+2 [M-IS17] 古気候・古海洋変動 (A04)
- 5月24日 AM1 [S-GL39] 上総層群における下部-中部更新統境界 GSSP (101B)
- 5月24日 AM2, PM1+2 [S-EM34] 地磁気・古地磁気・岩石磁気 (Convention Hall B)
- 5月24日 PM1+2 [S-GL38] 地球年代学・同位体地球科学 (303)
- 5月25日 AM1+2 [M-IS07] **ジオパーク** (101A)
- 5月25日 AM1+2 [A-CC21] アイスコアと古環境変動 (102)
- 5月26日 AM1+2 [H-QR15] **ヒト-環境系の時系列ダイナミクス** (101A)
- 5月26日 AM1+2 [H-CG11] **DELTA**S (102)
- 5月26日 AM1+2, PM1 [M-IS11] **津波堆積物** (International Conference Room)
- 5月26日 AM1+2, PM1 [A-HW16] **流域生態系の水及び物質の輸送と循環** (302)

■ポスターセッションは、オーラルセッションと同一日に開催され、ポスターは終日掲載されます。

■第四紀学会単独・主催セッションプログラム

紙面節約のため筆頭発表者のみ掲載します。(3月10日にWeb公開されます。)

●H-QR15 『ヒト-環境系の時系列ダイナミクス』

オーラルセッション：5月26日(木) 9:00～12:15 (会場：101A)

09:00～09:15 木村英人：液流動化地における連続貫入試験の実施例

連合大会プログラム

- 09:15 ~ 09:30 風岡 修ほか：東京湾北部の埋立地における層序と 2011 年東北地方太平洋沖地震時の液状化—流動化の層準：市川市行徳での調査から
- 09:30 ~ 09:45 近藤玲介ほか：北海道北部頓別平野周辺の沿岸部における完新世の砂丘および沖積層のルミネッセンス年代
- 09:45 ~ 10:00 青木かおりほか：鹿島沖海底コア MD01-2421 に介在する男体山七本桜 / 今市テフラの同定
- 10:00 ~ 10:15 鈴木毅彦ほか：後期更新世広域テフラ、大山倉吉テフラの噴出年代：太平洋鹿島沖 MD01-2421 コアをもちいた再検討
- 10:15 ~ 10:30 山田圭太郎ほか：福井県水月湖の年縞堆積物を用いた過去 5 万年間の堆積速度変化
- 10:45 ~ 11:00 川幡穂高ほか：北日本における過去 6,700 年間の温度変化と人類活動
- 11:00 ~ 11:15 吉田明弘ほか：北海道内浦湾海底コアの花粉分析データからみた完新世中期の寒冷化
- 11:15 ~ 11:30 羽生淳子：食の多様性・気候変動と生業・集落システムのレジリエンス：縄文時代の事例研究
- 11:30 ~ 11:45 米田 穰ほか：古人骨の同位体比からみた縄文時代生業の長期持続可能性
- 11:45 ~ 12:00 高場智博ほか：AMS¹⁴C 年代測定による池田山東麓における扇状地の推定形成年代と池田山断層の平均変位速度の再検討
- 12:00 ~ 12:15 奥村晃史ほか：トルコ・カイセリ盆地南東エルジエス断層の第四紀の活動

ポスターセッション：5月26日（木）15:30 ~ 16:45（会場：国際展示 6 ホール）

1. 渡辺和明ほか：野付崎バリアースピッツの地形発達史から読み解く根室海峡沿岸域の完新世海面変動と地殻変動
2. 横田彰宏ほか：北海道南西部、瀬棚平野における中・上部更新統の層序
3. 佐々木夏来ほか：奥羽山脈の大規模地すべり地における湿地の分布と発達過程
4. 丹羽雄一ほか：津谷平野完新統の堆積過程と三陸海岸南部における沈降傾向の関係
5. 石原武志ほか：会津盆地東縁で掘削されたボーリングコアのテフラおよび花粉化石層序
6. 秋山大地ほか：関東平野中央部・筑波台地西部に分布する上部更新統下総層群常総層にみられるテフラ層の分析
7. 山口和雄ほか：千葉県九十九里低地（真亀～片貝地区）の浅部地下構造
8. 中里裕臣ほか：関東平野東部、銚子地域における On-Pm1 とこれを覆う海成層
9. 野口真利江ほか：東京湾におけるカキ礁の発達過程と生態
10. 加藤裕真ほか：多摩丘陵北西部に分布する下部更新統上総層群稲城層における堆積システム
11. 西川瑛海ほか：遺跡立地とボーリングコア堆積物からみたエジプトナイルデルタ北西部イドゥク湖周辺における完新世地形発達史

● S-SS31 『活断層・古地震』

オーラルセッション：5月23日（月）9:00 ~ 17:00（会場：国際会議室（2F））

- 09:00 ~ 09:15 吾妻 崇ほか：十日町断層帯の活動履歴とセグメント区分
- 09:15 ~ 09:30 小森純希ほか：房総半島南部千倉低地におけるボーリングコアを用いた海岸段丘の離水年代推定と関東地震の履歴への制約
- 09:30 ~ 09:45 小松原 琢：16 世紀後半の本州中部～九州東部の一連の内陸地震はアムールプレートの東進みが引き起こしたのか？
- 09:45 ~ 10:00 田中雅章ほか：松江地域周辺のレス堆積物を対象とした遊離酸化鉄分析による年代推定手法の検証
- 10:00 ~ 10:15 東郷徹宏ほか：熊本県緑川断層帯の古地震調査
- 10:15 ~ 10:30 八木雅俊ほか：八代海海底断層群における活動履歴の解明—高分解能地層探査装置を用いた Seismic Trenching への試み—
- 10:45 ~ 11:00 竹内 章：富山湾沿岸における貞観地震の津波堆積物について
- 11:00 ~ 11:15 横田 崇ほか：活断層型地震のスケーリング式の再検討
- 11:15 ~ 11:30 野村俊一ほか：再来間隔のばらつきの空間的類似性を利用した活断層地震のベイズ型予測
- 11:30 ~ 11:45 松浦律子ほか：元禄地震と大正関東地震との違いについて
- 11:45 ~ 12:00 都司嘉宣ほか：百井塘雨著「笈埃隨筆」に記されほかた海嘯記事について
- 12:00 ~ 12:15 原田智也ほか：明応七年六月十一日（ユリウス暦 1498 年 6 月 30 日）の大地震に関する『九州軍記』の被害記述の検討
- 13:45 ~ 14:00 林 愛明ほか：糸魚川—静岡構造線北部セグメントの神城断層における古地震研究

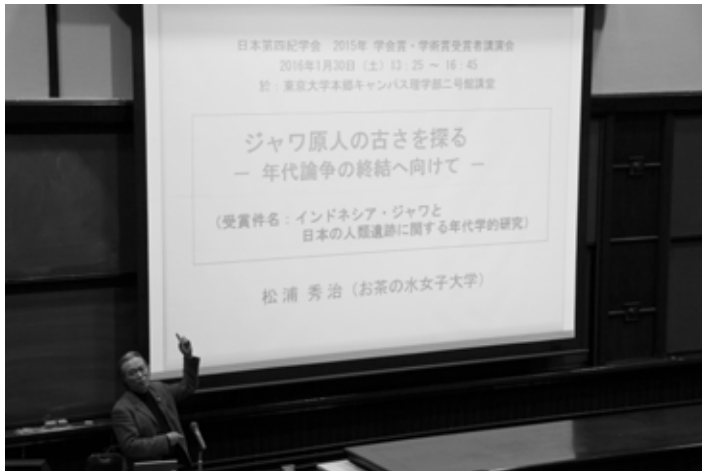
- 14:00 ~ 14:15 松多信尚ほか：神城断層（糸魚川静岡構造線活断層）の活動履歴—白馬村蕨平における変動地形学的調査
- 14:15 ~ 14:30 丹羽雄一ほか：ボーリング調査による糸魚川—静岡構造線活断層系・神城断層の上下変位速度の再検討
- 14:30 ~ 14:45 遠田晋次ほか：糸魚川—静岡構造線活断層系神城断層 2014 年地震断層のトレンチ調査報告
- 14:45 ~ 15:00 石村大輔ほか：LiDAR 差分解析による 2014 年長野県北部地震の地表地震断層と変位量分布
- 15:00 ~ 15:15 青柳恭平：2 時期の LiDAR-DEM に基づく 2014 年長野県北部地震の断層変位量分布
- 15:30 ~ 15:45 宇根 寛ほか：2014 年長野県北部の地震に伴う地表変動に関する SAR 干渉画像の解釈
- 15:45 ~ 16:00 田之口英史ほか：各種反射法地震探査記録の比較から推定した三浦半島断層群武山断層の浅部から深部に至る断層形状
- 16:00 ~ 16:15 山口 寛ほか：電磁気学的手法を用いた活断層構造の探査—山田断層系郷村断層（京丹後市）の例—
- 16:15 ~ 16:30 岡田真介ほか：断層の活動性評価手法の構築に向けた調査・研究（郷村断層帯・山田断層帯における各種調査の実施と適用性および課題の整理）
- 16:30 ~ 16:45 行谷佑一ほか：地中レーダー探査に基づく 1854 年安政東海地震で出現した蒲原地震山周辺の断層位置の推定
- 16:45 ~ 17:00 中田 高ほか：駿河トラフ海底活断層の陸域への連続性に関する地形学的検討

ポスターセッション：5月23日（月）17:15 ~ 18:30（会場：国際展示6ホール）

1. 佐野実可子ほか：糸魚川—静岡構造線活断層系南部セグメント周辺の変動地形
2. 上田圭一ほか：2014 年長野県北部の地震（Mw 6.2）時に出現した副次的な地表地震断層群の活動履歴調査（序報）
3. 岡田真介ほか：2014 年長野県北部の地震（Mw 6.2）の地表地震断層を横切る反射法地震探査
4. 小坂英輝ほか：山形盆地西縁断層帯村山市周辺の活構造に関する露頭資料
5. 白濱吉起ほか：新潟県十日町盆地東部段丘面上に見られる背斜状変形とその成因
6. 谷口 薫ほか：十日町断層帯東部におけるトレンチ調査およびボーリング調査（太田島地点）
7. 後藤秀昭：関東平野の第四紀後期の活構造図—数値標高モデルによる地形ステレオ画像の判読に基づく—
8. 金 幸隆ほか：数値水深モデル（50 m メッシュ・150 m メッシュ）から推定された下田沖断層帯と石廊崎断層
9. 尾崎正紀ほか：富士川河口断層帯及び周辺地域の 5 万分の 1 地質編纂図
10. 神嶋利夫ほか：砺波平野における第四紀後期の地形と砺波平野断層帯の活動
11. 椿 純一ほか：第四紀後期に活動していない断層における破碎帯の特徴—奈良県大淀町における中央構造線を例として—
12. 村上雅紀ほか：郷村断層帯・山田断層帯において実施した地形・地質調査（その 2：断層破碎帯の観察と ESR 分析）
13. 岡田真介ほか：郷村断層帯・山田断層帯において実施した各種物理探査とその適用性（その 2：P 波反射法地震探査、屈折法地震探査、CSAMT 探査、重力探査）
14. 坂下 晋ほか：郷村断層帯・山田断層帯において実施した各種物理探査とその有効性（その 1：S 波極浅層反射法地震探査、高密度電気探査）
15. 阿部恒平ほか：郷村断層帯・山田断層帯において実施した地形・地質調査（その 1：空中写真判読と露頭・トレンチ調査）
16. 田力正好ほか：島根半島周辺の活断層とそのテクトニックな意義
17. 吉田春香ほか：佐賀平野北縁断層帯の第四紀における活動性
18. 竹村恵二ほか：別府—万年山断層帯（大分平野—由布院断層帯東部）における重点的な調査観測—2015 年調査—
19. 八木雅俊ほか：海底活断層調査における高分解能地層探査の活用
20. 大村亜希子ほか：全有機炭素の放射性炭素年代連続測定による海底イベント堆積物認定の試み
21. 松本なゆたほか：重力異常を用いた逆断層帯の解析
22. 林 愛明ほか：チベット高原 Altyn Tagh 断層で発生した 2014 Mw 6.9 Yutian 地震による地震断層の共役 Riedel 構造
23. Maomao Wang ほか：Role of the Longquan fault in the active deformation of the Longmen Shan fold-and-thrust belt, eastern Tibetan Plateau

◆学会賞・学術賞受賞者講演会報告

国立歴史民俗博物館 工藤雄一郎



松浦秀治会員の講演の様子 (2015年学会賞・学術賞受賞者講演会にて、2016年1月30日、東京大学本郷キャンパス)

2015年学会賞・学術賞受賞者講演会が、2016年1月30日(土)に東京大学理学部2号館講堂で開催された。講演者は学会賞を受賞された小池裕子会員、松浦秀治会員、学術賞を受賞された藤原 治会員、百原 新会員の4名である。

小池裕子会員は「貝殻成長線、安定同位体、脂肪酸、mtDNAなどを用いた先史生態学に関する一連の研究」が評価されての受賞となった。講演では「第四紀学的アプローチの重要性 現生生態学と古生態学」と題して研究の半生が紹介された。生業動態に関する基礎概念や、縄文時代の里浜貝塚を事例とした1年間の貝層サイクルの検出事例、チョウセンハマグリを用いた酸素同位体比法による古水温推定、遺跡出土ニホンジカの齢査定にもとづく狩猟圧の時代変化、古人骨の安定同位体比分析からみる男女間の栄養段階の違いなど、小池氏のこれまでの研究の要点が整理され、大変興味深かった。

松浦秀治会員は日本の旧石器人骨とみなされてきた資試料の年代学的研究や、第四紀の人類進化において極めて重要な位置を占めるジャワ原人について、これまで混乱していた年代観を整理し、改めたことが評価され、「インドネシア・ジャワと日本の人類遺跡に関する年代学的研究」としての受賞となった。講演は「ジャワ原人の古さを探る - 年代論争の終結へ向けて -」と題して人類の起源についての研究史を整理しつつ、更新世前期のカラブリアン期初期における東方アジアへの人類拡散の図式についての検証を進めていることなどを紹介された。「年代観の整理」はまだ途上であること、不明確な年代測定、出土層序の認定が研究の混乱を招いてしまっていることの指摘は、同じく年代測定に関わる研究をしている者として印象的であった。

藤原 治会員は「完新世の内湾堆積物中の津波堆積物に関する一連の研究」が評価されての受賞

となった。講演は「津波堆積物の科学」と題して、津波堆積物を研究することの意味や、津波が生物相の破壊・移動・再生を起こすこと、災害史の復元と将来予測において重要であることを紹介された。個人的には7世紀以降の記録に残る災害のうち、1割の巨大災害が9割を超える災害犠牲者を占めていること、想定されている東南海地震に関連して、過去4000年間の記録では、超巨大津波の痕跡は見つからず、現実的な規模を理解して対応することが重要であることの指摘は非常に興味深かった。

百原 新会員は鮮新世以降の大型植物化石を用いた植物相変遷に関する一連の研究および日本の低湿地遺跡における大型植物遺体研究などが評価され、「大型植物化石を用いた植物相変遷の研究」としての受賞となった。講演では「後期鮮新世以降の環境変化と日本列島の植物相の形成過程」という題目で、大阪層群や魚沼層群から産出した鮮新世から更新世前期の植物相の変遷についての研究が紹介された。後期鮮新世以降の気候変動、特に新第三紀型の植物の消滅の過程や、第四紀の氷期-間氷期変動と日本列島から消滅した種の消滅と出現とを対応させた研究はまさに壮大な成果である。しかしその背後には、日本列島各地の地質層序と大型植物化石の緻密で地道な研究の蓄積があり、基礎研究の重要性を改めて感じた。

ところで2015年の学会賞はいずれも人類学に関わる分野であり、会場となった東京大学理学部生物学科が出身研究室であったこと、ともに渡辺直経先生から指導を受けた学生であったことに第四紀学会の歴史を垣間見るとともに、指導教官、そしてフィールドとの出会いが研究者を育ててきたことを改めて感じた。その一方で、講演会参加者が40名程度だったこと、充実した講演会だったにも関わらず若手研究者の参加が極めて少なかったことは残念であった。

◆ Quaternary International 日本特集号 オープンアクセスのお知らせ

INQUA 名古屋大会と日本第四紀学会 60 周年を機に準備していました Quaternary International 日本特集号が、2016 年 3 月 14 日に電子版で出版となりました。1 年間限定のオープンアクセスとなっています。この期間は自由にダウンロード可能です。幅広い分野の研究が盛り込まれていますので、是非この機会に入手しご覧ください。

2016 年 3 月 14 日 397 巻

URL: <http://www.sciencedirect.com/science/journal/10406182>

斎藤文紀・奥村晃史・鈴木毅彦・横山祐典・出穂雅実

◆ 「ジオパークシンポジウム：考古学、人類学、土壌学の視点から」のご案内

日本第四紀学会ジオパーク支援委員会と「社会のための第四紀学」研究委員会が協力して、ジオパークのすそ野を広げることを目指して、以下のシンポジウムを開催します。ふるって、ご参加下さい。

開催日：2016 年 6 月 19 日（日）

場 所：明治大学駿河台校舎リバティタワー 1 階 1011 教室

〒 101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1

主 催：日本第四紀学会

共 催：明治大学黒耀石研究センター

後 援：日本旧石器学会、日本人類学会、日本ジオパークネットワーク、日本考古学協会（予定）、
日本土壌肥料学会（予定）、日本ペドロロジー学会（予定）

参加費：無料

事前登録：なし

プログラム

1300-1330	ジオパークに関する最近の動向	目代邦康（自然保護助成基金）
1330-1400	旧石器考古学とジオパーク	小野 昭（明治大）
1400-1430	古墳考古学とジオパーク	北條芳隆（東海大）
1430-1445	埋蔵文化財行政とジオパーク	赤塚弘美（銚子市）
	休憩	
1500-1530	自然人類学とジオパーク	藤田祐樹（沖縄県博）
1530-1600	人類学のツアー実践	高橋 巧（ガンガラーの谷・ハブ博物公園）
1600-1630	土壌学とジオパーク	浅野眞希（筑波大）
1630-1730	コメント・総合討論	

問い合わせ先

植木岳雪（千葉科学大学・危機管理学部）

メール：[tueki\(at\)cis.ac.jp](mailto:tueki(at)cis.ac.jp)

◆日本第四紀学会 2015 年度第 2 回評議員会議事録

日時：2016 年 1 月 30 日（土） 10:00～13:00
 場所：東京大学本郷キャンパス 理学部 2 号館 第二講義室
 出席：小野会長、奥村、斎藤文紀、吾妻、池田、海津、
 卜部、河村、工藤、公文、小荒井、須貝、中村、
 藤原、松浦、宮内、百原（議事録）、山崎、
 横山、米田、熊井（元会長）、小森（幹事）
 欠席：阿部、池原、出穂、植木、奥野、川幡、北村、
 齋藤めぐみ、佐藤、里口、初宿、鈴木、高
 原、竹村、中川、長橋、八戸、三浦、安田、
 吉永

吾妻幹事長の司会で、小野会長挨拶の後、宮内崇裕評議員を議長に選出した。定足数確認（出席者 19 名、委任状 14 通）後、配布資料に基づき、下記の報告・審議が行われた。

1 報告事項

1. 2015 年度事業中間報告（百原庶務幹事）
 - 1-1. 庶務（庶務幹事：百原）
 - 1) 会員動向（2016 年 1 月 22 日現在）：正会員 1,126 名（うち学生・院生会費会員 79 名、海外会員 11 名を含む）、名誉会員 17 名、賛助会員 10 社。逝去会員：古川博恭 会員
 - 2) 総会・評議員会・幹事会の開催：2015 年度第 1 回評議員会を 2015 年 8 月 29 日に早稲田大学早稲田キャンパス 14 号館地下 B101 で開催した（出席者 32 名、委任状 8 通。議長：山崎晴雄 会員）。2015 年度総会を 2015 年 8 月 30 日に早稲田大学 14 号館 102 で開催した（出席正会員数 37 名、委任状 116 通、議長：細野 衛 会員）。幹事会は、2015 年 9 月 27 日、11 月 23 日、12 月 25 日、2016 年 1 月 24 日の計 4 回開催した。
 - 3) 学会賞受賞者候補選考委員および論文賞受賞者候補者選考委員の選考を行った。2015 年度第 2 回評議員会の開催案内と同封で選挙用紙を評議員に送付（20151218）、被選挙人の一覧に既に退会した会員が含まれていたため、候補者訂正について評議員宛メールの送付と文書の発送を行った（20151225）。2016 年 1 月 21 日に千葉大学園芸学部で開票作業を行った。第 4 回幹事会（20160124）で検討した結果、再選挙を行うこととした。
 - 4) 名誉会員候補者選考委員候補者として以下の 5 名を選考し（20151225）、委嘱の内諾を得た（20160101）。久保純子、佐藤宏之、松浦秀治、水野清秀、渡邊眞紀子、各会員。
 - 5) 功労賞受賞者選考のため、会員の過去の役職経歴に関する資料の更新を行った（20151225）。
 - 6) 第 2 回評議員会案内および学会賞学術賞受賞者講演会案内を送付した（20151218）
 - 7) 地球汚染－医療地質－社会地質学会主催の第 25 回環境地質学シンポジウムへの共催を承認した

- （20151015）。
- 8) 後援依頼（3 件）の承認を行った。第 20 回「震災対策技術展」後援依頼（20150927）、日本学術会議主催の公開講演会「強靱で安全・安心な都市を支える地質地盤－あなたの足元は大丈夫？－」（20151005）地盤工学会関東支部勉強会「氷期の北関東の森～宇都宮の 2 万年前の植物化石からわかること」（20151222）
- 9) ジオパーク新潟国際フォーラムへの後援名義使用依頼があり、対応を検討した（20151108）。後援名義の使用期間・対象の幅が広いこと、対象範囲を確認する等、検討を続けることとした。
- 10) 第 13 回 JpGU 学協会長会議（20151008）に出席（会長代理、吾妻幹事長）、INQUA の開催報告を行い、連合と学協会の協力に対する謝辞を述べた。
- 11) 「防災学術連携体」に参加することとした。
- 12) 転載許可申請（2 件）に対応した（1 件承認、1 件は許可申請の必要なしと返答）。
- 13) 年度途中の退会希望者の扱いについて検討を行った。年度途中の退会希望者については、会費の支払い状況を確認し、未支払いの場合は会費を請求、支払いを確認した上で退会の承認を幹事会で決定。会費を支払済みの場合は会誌を受け取るかどうか事務局が希望を確認し、当年度分の会誌を発送することとした（20151123）。
- 14) 学術著作権協会からの電子著作権に関する契約依頼について協議し、電子情報に関する契約は行わないこととした（20151225）。
- 15) 2015 年度から活動を開始する新しい研究委員会の設立申請を受け付けた（12 月 31 日締切）。

1-2. 顕彰（顕彰幹事：兵頭、庶務幹事：百原）

- 1) 2016 年学会賞選考委員会委員候補者の評議員による投票を行ったが、被選挙人の一覧に既に退会した会員が含まれていたため、再選挙を行うこととした。
- 2) 2016 年論文賞選考委員会委員候補の評議員による投票を行い、以下の 5 名を選出した。
 公文富士夫（地質）、出穂雅実（考古）、澤井祐紀（古生物）、吉永秀一郎（土壌）、那須浩郎（植物）、次点：工藤雄一郎（考古）。
- 3) 第四紀通信およびメーリングリストで 2016 年学会賞・学術賞、論文賞・奨励賞の推薦募集を行った（2016 年 1 月 31 日締切）。

1-3. 編集（編集幹事：卜部、藤原）

- 1) 編集状況
 第四紀研究 54 巻 5 号（特集号：総説 5 編、論説 4 編）、54 巻 6 号（総説（受賞記念）1 編、短報（英文）1 報）を刊行。第 55 巻第 1 号 論説 2 編（2 月上旬刊行予定）。第 55 巻第 2 号は総説 1 編、短報 1 編で現

在編集。2014年の投稿数は31件(内訳)であった。編集委員会は、第1回を9月26日に開催、第2回を11月28日に開催。第3回を1月23日に開催。現在の手持ち原稿13編(論説:8、総説(受賞記念):1、短報:4)

- 2) 早稲田大会の特集号を編集中(編集委員:久保、植木、卜部、藤原、第55巻第3号)
- 3) INQUA 報告記事の原稿を依頼した(第55巻第3号に掲載予定)。
- 4) 著者に配布する別刷代替のPDFの著作権の扱いについて検討した。
- 5) INQUA 報告記事の原稿を依頼中。

1-4. 会計(会計幹事:植木)

- 1) 2015年度会計中間報告(資料2)
- 2) 広報書記、学会ホームページ担当者の作業費を承認した。

1-5. 広報(広報幹事:齋藤めぐみ)

- 1) 広報委員会を組織して、第四紀通信の編集およびホームページの維持管理を行った。
- 2) 「第四紀通信」第22巻5、6号を編集し発行した。第23巻1号は近日中に発行予定。
- 3) 「第四紀通信」上記各号の電子版(pdf版)を、それぞれ発行前月の中旬に日本第四紀学会HPに掲載した。
- 4) 日本第四紀学会HPを通じて広報、情報提供、アウトリーチ活動等を行った。
- 5) 会員MLを通じて各種情報提供等を行った。
- 6) 評議員会MLおよび幹事会MLの管理を行った。
- 7) 学会HPの「だいいんきQ & A」への質問に対する対応を行った。

1-6. 渉外(渉外幹事:小荒井、須貝)

- 1) 防災学術連携体への加盟手続きを行い、設立総会ならびにフォーラムに小野会長と吾妻幹事長が出席した(20160109)。27年度会費を事務局から納入することとした。
- 2) JpGU2016年大会について、第四紀学会が主催する2つのセッション(「ヒトー環境系の時系列ダイナミクス」,「活断層・古地震」)の提案を行った。
- 3) JpGU2016年大会について、外部から依頼があった6つのセッション(「人間環境と災害リスク」,「流域の水及び物質の輸送と循環ー源流域から沿岸域までー」,「地球科学へのルミネッセンス年代測定の貢献」,「津波堆積物」,「ジオパーク」,「デルタ(三角州):複雑系への学術的アプローチ」)について共同提案を行った。
- 4) JpGU2016年大会のプログラムを確認した(「ヒトー環境系の時系列ダイナミクス」は5月25日午前、「活断層と古地震」は5月22日終日および5月23日午前)。大会開催期間中に第3回評議員会を開催することが困難なため、評議員会は6月19日に予定されているジオパーク関連のシンポジ

ウムに合わせて行うこととした。

- 5) 12月19日に東大総合博物館で開催された自然史学会連合総会に出席した(小森幹事代理出席)。
- 6) 「地質・地盤情報活用促進に関する法整備推進協議会」からの依頼について、第四紀学会に送付された資料「地質地盤の情報の活用と法整備」は評議員会で配布することとした。「地質・地盤情報活用促進に関する法整備推進協議会」が終了し、「地質・地盤情報活用・活用化研究会」を設立するにあたり、ひきつづき第四紀学会が会員として参加することを承認する方向で進めることとした(20151123)。

1-7. 行事・企画(行事幹事:米田、企画幹事:小森)

- 1) 2015年大会の若手発表賞の受賞者を決定し、リストを会員メーリングと学会HPと第四紀通信に掲載した。
- 2) 2015年受賞者講演会(2016年1月30日13:25~16:45)の案内を第四紀通信(12月号)に掲載し、ポスターを第四紀学会HPに掲載した。当日の会場運営を検討した。
- 3) 自然史学会連合後援会での体験講座(11月22日、三重県総合博物館)に、第四紀学会として体験ブースを出展した。
- 4) 科研費補助金成果公開費について。申請案の提案がなく今年度は申請を見送った。
- 5) 2016年千葉大会(千葉大学けやき会館、9/17~20)の予定について、60周年行事検討委員会(11月29日開催)の結果をうけ、時間配分やポスター会場の確保などの問題を検討した。
- 6) 2017年大会の開催場所について、福岡大学を候補として検討を始めることとした。
- 7) ジオパーク支援委員会からの申請を受け、6月19日(日)に明治大学リバティータワー1F、1011教室を会場として、シンポジウムを開催することとした。午前中に評議員会(10:00~12:00)、午後にはシンポジウムを開催する予定で、植木幹事を中心に準備を進めることとした。

2. 2015年度会計中間報告(吾妻幹事長)

資料 2

2015 年度収支会計中間報告

(2015 年 12 月 31 日現在)

収入の部

(単位：円)

科 目	予算額①	12 月 31 日 現在②	増減②-①	摘 要
会費収入	10,760,000	9,052,991	-1,707,009	
正会員会費収入	10,500,000	8,792,991	-1,707,009	通常会員会費 8,648,000 円 学生会員会費 117,000 円 海外会員会費 27,991 円 20,000 円×10 社 (13 口)
賛助会員会費収入	260,000	260,000	0	
誌代	1,500,000	512,200	-987,800	要旨集売上 (32200 円)、定期雑誌購入、Back No
別刷代・超過頁代収入	700,000	552,623	-147,377	54 巻 4 号～54 巻 6 号別刷代
雑収入	400,000	355,934	-44,066	2015 年大会余剰金(240,727 円)、JST、著作権料収入等
利子収入	5,000	397	-4,603	預金利息
広告料収入	0	0	0	
役員選挙積立金取崩収入	0	0	0	
INQUA 対策積立金取崩収入	0	0	0	
名簿作成積立金取崩収入	0	0	0	
予備費積立金取崩収入	0	0	0	
収入合計	13,365,000	10,474,145	-2,890,855	
前期繰越金	12,610,389	12,610,389	0	
合計	25,975,389	23,084,534	-2,890,855	

支出の部

(単位：円)

科 目	予算額①	12 月 31 日 現在②	増減②-①	摘 要
会誌発行費	5,200,000	1,774,985	-3,425,015	
印刷費	3,000,000	1,638,576	-1,361,424	第四紀研究 54 巻 4 号～54 巻 6 号 各 1,500 部
編集費	700,000	0	-700,000	※年度末精算
編集人件費	1,200,000	0	-1,200,000	※年度末精算
別刷印刷費	300,000	136,409	-163,591	第四紀研究 54 巻 4 号～54 巻 6 号
会誌・会報送費	650,000	294,594	-355,406	第四紀研究 54 巻 4 号～54 巻 6 号
会報発行費	850,000	453,522	-396,478	
印刷費	600,000	302,292	-297,708	第四紀通信 22 巻 4 号～22 巻 6 号 各 1,400 部
編集費	50,000	61,226	11,226	第四紀通信編集費
編集人件費	200,000	90,004	-109,996	第四紀通信編集アルバイト代
学会 HP 運営費	150,000	42,444	-107,556	HP 更新アルバイト代、ドメイン更新料等
大会運営準備金	400,000	0	-400,000	
巡検準備金	100,000	0	-100,000	
講演会・シンポジウム費	100,000	0	-100,000	
予稿集印刷費	100,000	85,212	-14,788	2015 年大会講演要旨集 (本 300 部)
学会賞等顕彰費	150,000	99,248	-50,752	副賞 1 名 (50,000 円)、賞状作成費
講習会費	50,000	0	-50,000	
通信費	300,000	123,481	-176,519	会費請求書発送郵送費、事務通信費等
会議費	50,000	0	-50,000	
旅費・交通費	600,000	352,189	-247,811	幹事会・委員会等交通費
印刷費	500,000	0	-500,000	学会専用封筒、コピー代
業務委託費	2,400,000	0	-2,400,000	事務委託費概算払分
INQUA 対策費	0	0	0	
役員選挙費	0	0	0	
名簿作成費	0	0	0	
INQUA 対策積立金繰入支出	100,000	0	-100,000	
役員選挙費積立金繰入支出	350,000	0	-350,000	
名簿作成積立金繰入支出	300,000	0	-300,000	
予備費積立金繰入支出	0	0	0	
研究委員会助成金支出	250,000	0	-250,000	
加盟学協会分担金支出	30,000	0	-30,000	地球惑星科学連合、自然史学会連合分担金
国際科学技術コンテスト協賛金	50,000	0	-50,000	国際地学オリンピック協賛金
アウトリーチ費	150,000	0	-150,000	
60 周年記念事業費	100,000	0	-100,000	
雑費	100,000	9,835	-90,165	振込手数料等
予備費	200,000	0	-200,000	
INQUA 大会準備金	0	0	0	
INQUA 大会補助金	3,000,000	0	-3,000,000	前期繰越金
支出合計	16,080,000	3,235,510	-12,994,490	
次期繰越金	9,895,389	19,849,024	10,103,635	
合計	25,975,389	23,084,534	-2,890,855	

貸借対照表
(2015年12月31日現在)

(単位：円)

借方		貸方	
科目	金額	科目	金額
流動資産		流動負債	
郵便振替	6,432,974	前受会費	64,992
小口現金	2,370,278		
普通預金	9,475,035	小計	64,992
現金(事務局)	35,729	正味財産	
未収金	0	名簿作成積立金	900,000
		役員選挙積立金	0
固定資産		INQUA対策積立金	0
定期預金	10,000,000	予備費積立金	7,500,000
		次期繰越金	19,849,024
		(前期繰越金	12,610,389)
		(当期収支差額	7,238,635)
		小計	28,249,024
合	28,314,016	合計	28,314,016

財産目録
(2015年12月31日現在)

資産の部

(単位：円)

科目	摘要	金額
郵便振替	郵便局(年会費振込専用口座)	6,432,974
小口現金	編集書記手許金	2,370,278
普通預金	みずほ銀行早稲田支店	9,272,486
普通預金	三井住友信託銀行本店営業部	202,549
現金	事務局手持ち金	35,729
未収金		0
流動資産合計		18,314,016
定期預金	三井住友信託銀行本店営業部	10,000,000
固定資産合計		10,000,000
合計		28,314,016

負債の部

(単位：円)

科目	摘要	金額
前受会費	2016年度以降年会費	64,992
合計		64,992

正味財産の部

(単位：円)

科目	摘要	金額
名簿作成積立金	名簿作成積立金	900,000
役員選挙積立金	役員選挙積立金	0
INQUA対策積立金	INQUA対策積立金	0
予備費積立金	予備費積立金	7,500,000
次期繰越金		19,849,024
	前期繰越金	12,610,389
	当期収支差額	7,238,635
合計		28,314,016

3. 組織改革委員会活動報告（吾妻幹事長）

2015年総会で委員会設置の承認を受けて、小野会長、斎藤文紀副会長、奥村副会長、吾妻幹事長、百原庶務幹事、水野会員、北村会員、小荒井会員（現渉外幹事）、須貝会員（現渉外幹事）で構成される組織を立ち上げ、11月25日と1月10日に会合を開催し、新組織体制とそれに合わせた会則および役員選挙規定の改定案の検討を行った。組織体制については、総会における会員からの意見を踏まえて領域を一つ増やすとともに、選挙方法については他領域への投票を可能とする案を作成した。また、会員アンケートを実施し、領域の追加にともなう領域間の構成員数に大きな偏りが生じる可能性がないことを確認した。

4. 60周年記念事業検討委員会活動報告（吾妻幹事長）

2015年総会で委員会設置が承認された「60周年記念事業検討委員会」では、11月29日に事前打合せを行い（小野会長、吾妻幹事長、百原庶務幹事、宮内大会実行委員長が出席）、委員の依頼状況の確認のほか、過去の記念大会におけるシンポジウムのテーマの確認や記念行事として実施すべき事業について検討した。

5. 国際第四紀学連合第19回大会組織委員会活動報告（吾妻幹事長）

大会組織委員会の幹事を3回（第37回：9月27日、第38回：11月10日、第39回：12月25日）開催し、大会開催報告書およびJTBへの経費支払い等会計資料の作成について議論した。年度内に組織委員会を解散し、残金を第四紀学会に支払うことで、HPの維持費等今後の事務処理を第四紀学会に委託することとした。

6. ジオパーク支援委員会活動報告（吾妻幹事長）

1) 2015年度までの日本ジオパーク委員会（JGN）の委員として、目代会員、橋詰会員を推薦し、認定・審査の活動に携わってもらった。また、2016年度のJGNの委員として、橋詰会員、浅野会員を推薦することになった。

2) 委員会の今後の活動について議論し、JGNの対応のほかに、ジオパークに第四紀学を取り込むためのシンポジウムの開催と、審査に近いジオパークへのコンサルティングを働きかけることになった。

7. 日本学術会議地球惑星科学委員会 INQUA 分科会報告（奥村副会長）

第23期第3回地球惑星科学委員会 INQUA 分科会を下記の通り開催した。

1. 日時：平成27年12月26日（土）10:30～12:30
2. 会場：東京大学地震研究所 1号館事務会議

室B

3. 出席（敬称略）：奥村（委員長）、斎藤（副委員長）、海津、小口、佐竹、北里、佃、小嶋（以上委員）、遠藤、小野、吾妻（以上オブザーバー）

4. 議題等

1) 前回第23期第2回地球惑星科学委員会 INQUA 分科会議事録承認。

2) INQUA 名古屋大会開催報告

・2015年7月26日（日）から8月2日（日）に名古屋国際会議場で開催され、68カ国/地域から1789名（海外1312名、国内477名）が参加し成功裏に終わった。

・例年の会議に比べ、若手研究者のサポートに力を入れた。

・巡検は19コースが成立し、海外から500名程度が参加した。

・2113件の発表（プログラム掲載）があり、キャンセルは50件程度と非常に少なかった。

・フューチャー・アースの特別セッションを開催し、約800名の参加があった。

・INQUA 国際評議員会において次期会長（Allan Ashworth, U.S.A.）ほかの新役員が選出され、次回2019年開催地はアイルランド（ダブリン）に決定した。また、町田 洋氏ほか3名がINQUA fellow に承認された。

・本会議の主催は学術会議と第四紀学会であったが、他学会からも多数の参加者があったことが成功の一因である。

・5回の市民公開講座を開催し、各回50～130名程度の一般市民の参加者があった。

・INQUA 名古屋大会会計報告：未確定ではあるが、およその収支ともに約130百万円であり、最終的には200万円程度の余剰金が見込まれ、第四紀学会へ寄付される予定である。

3) 2016年度代表派遣

・IGC（南アフリカ・ケープタウン）に斎藤副会長、奥村副会長を代表派遣候補とすることとした。

4) 2016年度の活動方針

・公開シンポジウム開催の可能性を検討する。具体的には、Anthropocene 関連、更新世前期～中期境界の国際模式地点候補地（房総半島千葉セクション）関連、完新世の細分関連などがある。

・INQUA 名古屋大会の成功をもとに、それをまとめる「学術の動向」の特集号を検討する。また、INQUA 名古屋大会時に行われた普及講演会の続編を行い、出版物を印刷することを検討する。

・高校の地学、地理の新カリキュラムにおける「第四紀学」の取り扱い、用語の統一を検討する。

8. その他（吾妻幹事長）

2015年度までの今期研究委員会報告については、第3回評議員会で行うこととした。

II 審議事項（吾妻幹事長）

1. 名誉会員候補者選考委員会の設置について

2015年度は名誉会員候補者選考委員会を設置する年度にあっている。名誉会員候補者選考規定に従い、名誉会員候補者選考委員会を設置し、次の5名を委員に任命することについて審議を行った結果、承認が得られた。名誉会員候補者選考委員：久保純子、佐藤宏之、松浦秀治、水野清秀、渡邊眞紀子、各会員

2. 新しい研究委員会（2015-2019）の設置について

2015年度下期から2019年度上期にかけて活動する研究委員会の募集を行った結果3件の応募があり、これらの設置について審議を行った結果、承認された。新委員会：① **第四紀年代層序研究委員会**、② **「社会のための第四紀学」研究委員会**、③ **テフラ・火山研究委員会**

3. 組織改革に伴う会則及び役員選挙規定の改定について

学会では2017年度から新しい組織体制および選挙方法に移行する準備を進めており、それに向けて2016年度総会で会則及び役員選挙規定の改定を行う予定である。今般、組織改革委員会より会則改定案及び役員選挙規定の改定案が提出され、これらについて審議を行った。

吾妻幹事長が、経緯と委員会議事録を説明。主な点は、1) 第1回評議員会での審議結果をふまえ、領域5を追加したこと。領域5に会員の希望が集中する心配があったのでアンケートを行ったこと。2) 選挙制度では所属領域以外の領域にも投票できるが他領域の投票に立候補・推薦候補者の当落が左右されないよう、0.2票としたこと。3) 評議員

の定数については、各領域5人は必要で、それ(150)を越える人数の多いところは30名について1名増員すること。ただし立候補者が定数内だと無投票であること、である。

アンケートの際に提出された意見を別紙資料で配布し、研究領域について、領域にまたがる研究者からの違和感があったこと（特に、海岸・海洋、氷床・氷河地形など）や、グローバルな視点とローカルな視点についてわけたほうが良いという意見があったことを紹介した。それに対し、評議員より研究領域に分けるという考え方やその分け方、領域による票の重みの違い、評議員と執行部会の人数について、質疑応答が行われた。次に、資料に基づいて会則の改定案および役員選挙規定改定案の説明があり、それをもとに質疑応答が行われた。最後に、議長より、組織改革及び、それに伴う会則及び役員選挙規定の改定の提案について諮られ、大筋を認めることが議決された。吾妻幹事長より、今後の予定（次回の議論の場合は6月の評議員会で、会則は次年度総会で決め、次回の選挙に反映させる）が示され、それにむけて3月6日に組織検討委員会を行うため、2月中旬に意見を募る旨、依頼があった。

4. その他

4-1. 長期会費滞納者の除籍について

正会員13名、海外正会員3名、海外学生会員1名の滞納者の除籍リスト（別紙資料）を検討し、評議員からも通知してもらい、2月末までに連絡がない場合は、除籍とすることを承認した。今後の滞納者の検討方法については幹事会で検討することとした。

日本第四紀学会研究委員会設置申請書

① 第四紀年代層序研究委員会

○提案者名：岡田 誠・菅沼悠介・里口保文・風岡 修・亀尾浩司・西田尚央・楡井 久・熊井久雄・奥村晃史

○代表者名：岡田 誠

○連絡先：〒310-8512 水戸市文京2-1-1 茨城大学理学部 TEL:029-228-8392

Email: makoto.okada.sci(at)vc.ibaraki.ac.jp

○活動目的：世界有数の火山国である我が国では、堆積層中に数多くの火山灰層を挟在するため、放射年代による堆積年代決定が可能である。加えて広域テフラが多数確認されており、周辺海域を含めた広範囲で同時期面の認定が行われてきた。また複数のプレート沈み込みによる活動縁辺に位置することから、急速な隆起・沈降が起こっており、海洋微化石を豊富に含む海成第四系が陸上に幅広く分布する。さらに後背地が磁性粒子を豊富に含む火山弧である場合が多く、安定した古地磁気シグナルを検出する上で有利である。特に下部-中部更新統境界GSSP候補地となっている「千葉セクション」を含む房総半島およびその周辺域に分布する第四系はこれらの特徴を兼ね備え、年代層位学的な研究をする上で極めて優れた資質を持つ。本研究委員会は、これらの第四系における年代層位学的研究や、他地域との対比研究を

推進し、世界の第四紀研究に貢献することを目的とする。INQUA との関係では、本委員会は Commission on Stratigraphy and Chronology (SACCOM) の国内対応組織であることを想定している。

○ 4年間の活動計画概要：

申請が認められた場合の活動計画は以下に記すとおりである。

- 1) 本研究委員会の提案母体は、下部－中部更新統境界 GSSP 候補地である「千葉セクション」の GSSP への申請プロポーザル作成に必要な研究を進めるために 2013 年夏に作られた「千葉セクション研究グループ」である。本委員会は、「千葉セクション研究グループ」の活動を継承し、2016 年度は同年夏が締切である「千葉セクション」の下部－中部更新統境界 GSSP への申請プロポーザル作成に注力する。この他、地球惑星科学関連学会連合大会における「下部－中部更新統境界 GSSP」セッションを 2014、2015 年度に引き続き開催する。また第四紀学会における GSSP 関連セッションの開催、野外巡検を伴う研究集会の開催も予定している。
- 2) 「千葉セクション研究グループ」は GSSP 申請のために、これまで幅広い研究分野にわたる研究者による共同研究を推進してきた。その分野は、海洋微古生物学や同位体地球化学、古地磁気学、放射年代学、堆積学、花粉学にわたり、下部－中部更新統境界周辺の地層が集中的に研究された。次年度以降にはこの経験を生かし、本研究委員会として以下に示す研究を推進する。
 - ①房総半島およびその周辺域に分布する海成層において、地磁気逆転境界－海洋微化石の年代指標層準－海洋同位体層序間の関係を精密に決定し、挟在するテフラ層の高精度放射年代測定により精密な時間スケールを与える。
 - ②上記で確定された地質年代スケールを、広域テフラを通じて国内の第四系と対比し、国内の第四系の年代精度を大幅に向上させる。
 - ③古地磁気－海洋同位体層序を通じてグローバルな第四系の対比を進め、房総半島第四系で確立した地質年代スケールを「世界基準」とする。

○ 2016 年度計画：

「千葉セクション」GSSP プロポーザル作成支援のため、以下の活動を計画している。

- 1) 地球惑星関連学会連合大会における GSSP セッションの開催 (5 月)
 - 2) 「千葉セクション」を構成する上総層群国本層の塊状泥岩層の堆積様式解明のための堆積学関係者による研究集会・現地討論会 (5～6 月)
 - 3) プロポーザル文書作成のための関係者集会 (7～8 月)
- プロポーザル提出後は、日本第四紀学会における関連セッションの開催を計画している。

○ 予想される参加者数：50 人

○ 予算：研究集会・現地討論会の準備・開催費用として 5 万円

② 「社会のための第四紀学」研究委員会

○ 提案者名：植木岳雪 (千葉科学大)・久保純子 (早稲田大)・目代邦康 (自然保護)・橋詰 潤 (明治大)・小森次郎 (帝京平成大)

○ 代表者名：植木岳雪 (千葉科学大)

○ 連絡先：tueki(at)cis.ac.jp

○ 活動目的：現在、学会員の研究領域の区分に見直しが進められており、第四紀学と社会との関わりに関する区分が新たに提案されている。それは、学校、博物館、行政機関、ジオパーク、企業の関係者や一般市民などのように 4 つの研究区分に属さない会員の居場所を確保するとともに、それらの会員が第四紀学の視点から諸活動に取りくんでもらうことを目指すものであろう。また、会員サービス向上検討委員会の答申では、新しい時代における日本第四紀学会のあり方として、学会の社会貢献・地域貢献の重要性が強調されているが、そのための人的資源の不足や負担の偏りが指摘されている。

本研究委員会では、学会の研究領域区分の見直しとこれからの学会の社会貢献・地域貢献の重要性に対応して、広報・アウトリーチ、ジオパーク、学校教育、生涯学習、防災・減災、CSR 活動、環境保全、自然保護、露頭保全、地質地盤情報の公開・利活用など、第四紀学の研究と社会を結びつける活動を推進する。とくに、他学会や他機関との連携を図り、シンポジウムを踏まえて第四紀研究の特集号も提案したい。

○ 4年間の活動計画概要：

2015 年度 ジオパークに関するシンポジウム

- 2016年度 シンポジウム、ワークショップや他学会との連携活動
 2017年度 シンポジウム、ワークショップや他学会との連携活動
 2018年度 シンポジウム、ワークショップや他学会との連携活動
- 予想される参加者数：
 - 委員会は10名程度を想定、今後増員の予定
 - 委員になることを通して、学会員増にもつなげたい
 - シンポジウムは各50～100名程度の参加者
 - 2015年度計画（2016年2月～2016年7月：予算案含む）：
 - 2016年6月に「ジオパークと考古学・土壌学・人類学」のシンポジウムを開催する。
 - 予算：シンポジウム会場費 10,000円
 - アルバイト 8,000 × 4名 = 32,000円
 - 資料印刷費 8,000円
 - 合計 50,000円

③ テフラ・火山研究委員会

- 提案者名：植木岳雪・奥村晃史・鈴木毅彦・竹下欣宏・檀原 徹・中里裕臣・森脇 広（五十音順）
- 代表者名：鈴木毅彦
- 連絡先（代表者）：鈴木毅彦 首都大学東京 都市環境学部地理環境コース
 - 〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1
 - Tel:042-677-2590（直通）FAX:042-677-2589 suzuki(at)tmu.ac.jp
- 活動目的：テフラ・火山研究委員会は、INQUA International Focus Group on Tephrochronology and Volcanology (INTAV; INQUA 第17回ケアンズ大会以降、旧 Sub-Commission on Tephrochronology and Volcanism: SCOTAV を引き継いだ組織、Commission on Stratigraphy and Chronology: SACCOM の下にある) の国内対応を目的とした日本第四紀学会内の委員会である。第四紀学におけるテフラ研究の重要性は従来から広く認められており、日本のテフラ研究は質や研究者数から見ても世界のトップレベルクラスにある。一方で、国内のテフラ研究には手薄な分野もあり、それらに対する研究環境の整備や研究者間の問題意識の共有など、研究委員会で取り組むことのできる問題も多い。この様な状況からみてテフラ・火山研究委員会に対する期待も大きいと判断でき、引き続き活動を希望する。
- 4年間の活動計画概要：申請が認められた場合の活動計画は以下に記すとおりである。
 - 1) これまでのテフラ研究の成果は論文ベースあるいは書籍形式でまとめられているが、ほとんどの研究分野では、蓄積された研究成果は電子データ化されつつある。一方、国内のテフラ研究の成果は少数例を除くと電子データ化されない状況にある。近年、電子データを目ざす研究事例も始まりつつあり、研究委員会ではその様な研究を支援し、また、電子データ化を推進する上での問題点・情報を共有する場を提供する。
 - 2) 研究を目的とした国内外のテフラ研究者に対し、日本国内のテフラを標準試料として提供する仕組みを構築する。
 - 3) 数年に一回程度、国内にて野外巡検を伴う研究集会を開催し、テフラ関連の諸分野における、情報交換・研究交流の機会を与える。これを通じて国内におけるテフラ研究の発展を促す。関連する諸分野はできる限り広く考え、テフラ研究の基本となる層序・対比だけでなく、火山学・岩石学・地形学・環境変遷学（陸上と海域）・考古学から、火山灰編年学を支える分析技術、年代測定法など諸分野を考えている。
 - 4) 2017年初頭に予定されているアルゼンチンにおける INTAV 主催の野外集会に向けて、その周知活動を実施し、国内の研究者に同集会の参加を促す。
- 予想される参加者数：70名
- 2015年度計画（2016年2～7月：予算案含む）
 - 野外巡検（国内）を伴う研究集会を準備する。
- 予算：巡検下見費用5万円

◆日本第四紀学会 2015 年度第 2 回組織改革委員会議事録

日 時：1 月 10 日（日）10:00～18:00

場 所：東京工業大学キャンパスイノベーションセンター 408 会議室・広島大学東京オフィス

出 席：小野会長、奥村副会長、齋藤文紀副会長、吾妻、北村、小荒井、須貝、水野、百原

報告事項

1. 2015 年末締め切りで行われた領域区分のアンケートについては、425 通の回答があり、1 月 7 日に吾妻・百原委員が集計し、以下の通りとなった。

領域 1：気候・海水準変動及び海洋変動	38 (9%)
領域 2：陸上の諸プロセス	134 (32%)
領域 3：層序と年代基準	65 (15%)
領域 4：人類と生物圏	110 (26%)
領域 5：現代社会に関わる第四紀学	77 (18%)
無選択 1	

審議事項

- 領域区分のアンケートに寄せられたコメントを検討し、領域の名称、説明、キーワードを一部修正した(資料)。また、領域の選択は選挙実施に合わせ 2 年ごとに実施することと、他の領域の活動にも参加できることを、周知することとした。
- 領域の選択を申請しない会員の対応については、幹事会でを行うことを確認した。
- 各領域の評議員定数を検討し、以下を原案とすることにした。
 - 会員数 150 名以下の領域・・・評議員 5 名
 - 会員数 151 名以上の領域・・・30 名につき評議員を 1 名とする。
- 会則の改訂の原案を審議し、次回幹事会に報告することとした。
- 役員選挙規定の改訂の原案を審議し、次回幹事会に報告することとした。

資料

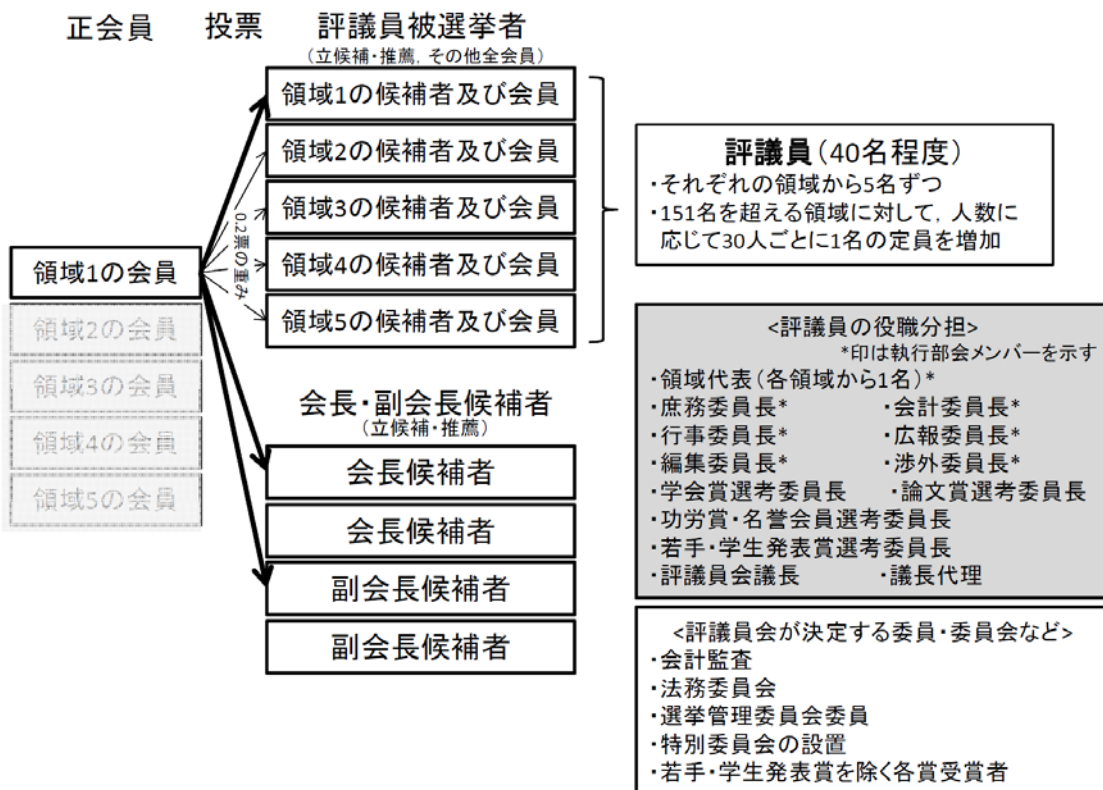
領域の概要（下線部は総会時に提示した案からの変更箇所）

領域	説明	キーワード（一例）
領域 1 気候変動及び海洋 の諸プロセス	気候変動と海水準変動及び海洋の諸プロセスに重点を置く。グローバルなテーマから局所的な現象まで幅広く扱う。	気候変動、海水準変動、大気循環、海洋循環、氷河・氷床、海洋酸素同位体比、地球軌道変化、海底・海岸の地形と堆積物。
領域 2 陸上の諸プロセス	地形形成プロセスやテクトニクスなど、地表近傍での現象やメカニズムに重点を置く。	地形発達、古地震、噴火史、構造運動、寒冷地形、湖沼、河川、地下水、土壌。
領域 3 層序と年代基準	層序や環境変遷などの時間的な変化や同時期における比較、年代測定など時間との関係に重点を置く。	編年、層序、年代測定、対比、広域テフラ、年代指標。
領域 4 人類と生物圏	気候・環境変動が人類と生物へ及ぼす影響、人類と生物圏・環境の動的相互作用に関係する諸テーマを扱う。	古生態、動物、植物、生物地理、植生変化、環境適応、考古、古人類。
領域 5 現代社会に関わる 第四紀学	現代社会に関わる第四紀学および社会普及に関わる諸テーマを扱う。	地学・地理教育、自然・文化遺産保護、ジオパーク、環境問題、災害、応用地質、工学、地盤、自然改変

組織案(全役員の任務期間は2年間単位、ただし*印は1年交代 **印は2年に一度 Ver.2016.1.24)



選挙制度案(Ver.20160124)



◆日本第四紀学会 2015 年度第 4 回幹事会議事録

日 時：2016 年 1 月 24 日（日）10:00～16:30
会 場：広島大学東京オフィス 408 会議室
出 席：小野（会長）、奥村（副会長）、齋藤文紀（副会長）、吾妻（幹事長）、卜部（編集）、植木（会計）、米田（行事）、北村組織改革委員会委員、百原（庶務、議事録）
欠 席：兵頭（顕彰）、齋藤めぐみ（広報）、小荒井（渉外）、藤原（編集）、須貝（渉外）、小森（企画）、伊津野（事務局）

<報告事項>

幹事長：1. 1 月 10 日組織改革委員会第 2 回会合に会長、庶務幹事とともに出席。2. 新規研究委員会の設置に関する申請を受理。3. 転載許可 3 件を確認し、不適切な転載と思われる点について修正・改善の要求を行った。

庶務：1. 第 3 回幹事会議事録の作成。2. 組織改革に関するアンケート結果の集計作業（1 月 6 日、千葉大松戸キャンパス。吾妻・百原）。3. 学会賞選考委員・論文賞選考委員選挙開票作業（1 月 21 日、千葉大松戸キャンパス、伊津野・百原）、選考委員を選考。

会計：HP 担当者への謝金、学会 HP のサーバー管理費の支出の承認。

行事・企画：1. 東京大学出版会による講演会会場での書籍販売の許可。2. 2017 年大会の会場として福岡大の奥野会員から仮承諾を受けた。日程は 8 月 26、27 日を中心として検討中。3. ジオパーク支援委員会からシンポジウム開催の申請。6 月 19 日（日）明治大学リバティータワー 1F、1011 教室。午前中評議員会、午後シンポジウムの予定。4. 学会賞・学術賞講演会について段取りの確認。

渉外：1 月 9 日防災学術連携体の設立総会、学術フォーラムに小野会長と吾妻幹事長（須貝幹事代理）が連携委員として出席。

広報：1. 第四紀通信 23 巻 1 号の編集。2. 会員 ML に 12 件の情報を配信。3. 学会 HP 更新の作業。

編集：55 巻 2 号の編集。出版物利用規程の見直し

を編集委員会で検討することとした。

事務局：年度途中退会希望者の会費納付状況と会誌送付状況を確認。

日本学術会議：1. 第 23 期第 3 回地球惑星科学委員会 INQUA 分科会（12 月 26 日）で INQUA 名古屋大会とその会計処理について報告を行った。2. IGC（ケープタウン）への齋藤副会長の代表派遣。3. 地球惑星科学委員会に提案するプロジェクト proposal の募集。

INQUA 大会組織委員会：Quaternary International に掲載する大会要旨集を JTB に発注。QI 日本特集号の論文（2 冊 49 論文）の編集報告。INQUA 大会予算残額は QI の 1 年間 Open access 経費として支出、残金を第四紀学会に支払い、HP 維持等今後の事務処理を第四紀学会に委託。

<審議事項>

1. 2016 年学会賞選考委員・論文賞選考委員選考について：学会賞選考委員選考の候補者修正手続きの不備を幹事会で検討した結果、再度、学会賞選考委員選挙を行うこととした。

2. JpGU 環境災害対策委員会の活動への対応について：大規模災害発生時に窓口となる連絡先（委員＋学会事務局等）の情報提供依頼について検討。ユニオンセッションでの発表に参加することとした。

3. JpGU「活断層と古地震」セッションの所属セッションについて：科研費細目に関連して行われる 3 年後の再編成の際までに、状況をふまえて検討することとした。

4. 会則改定案および役員選挙規定改定案について：今後の改訂手続きの日程確認を行った後、第 1 回、第 2 回組織委員会議事録を確認した上で、会則改定案および選挙規定案の確認、加筆修正を行った。組織案をもとに執行部会の人数、各執行部員の役割について検討を行った。

5. 評議員会資料の確認を行った。

6. 退会希望者の退会承認を行った。

◆日本第四紀学会 2015 年度第 5 回幹事会議事録

日 時：2016 年 3 月 13 日（日）13:00～17:30
 会 場：明治大学駿河台キャンパス グローバル
 フロント 7 階 C4 会議室
 出 席：小野（会長）、奥村（副会長）、吾妻（幹
 事長）、植木（会計）、小荒井（渉外）、
 米田（行事）、百原（庶務、議事録）、伊
 津野（事務局）
 欠 席：斎藤文紀（副会長）、兵頭（顕彰）、藤原（編
 集）、卜部（編集）、須貝（渉外）、小森（企
 画）、齋藤めぐみ（広報）

＜報告事項＞

幹事長：1. 3 月 6 日（日）組織改革委員会第 3 回
 会合に出席、第 2 回評議員会で出された意見を踏
 まえた検討を進めるよう依頼。2. 60 周年記念事業
 検討委員会について、第 1 回会合の日程調整を行
 い、新に設置される領域 5 の担当委員候補者に委
 員を依頼。

庶務：1. 第 4 回幹事会議事録の作成。2. 第 2 回評
 議員会議事録の作成。修正のうえ通信掲載原稿と
 した。3. 学会賞選考委員選出にあたって再選挙を
 実施、2 月 24 日に開票作業を行った（千葉大松戸
 キャンパス。百原、伊津野）。総票数 90 うち白票
 3、久保純子（地理）、竹村恵二（地質）、小池裕
 子（人類）、御堂島 正（考古）、奥野 充（地理）、
 次点：五十嵐八枝子（植物）。結果を評議員会 ML
 に流すこととした。4. 名誉会員候補者選考委員の
 委嘱手続きを行い、委員長を選出を依頼。推薦多
 数の久保会員に委員長就任を依頼し、了承を得た。
 名誉会員候補者選考のため 70 歳以上、会員歴 20
 年以上の会員リストの作成を事務局に依頼した。
 5. 第 60 回粘土科学討論会への共催依頼について、
 ML で審議、共催の返事を行った。

顕彰：1. 学会賞・学術賞選考委員会について小池
 裕子会員を委員長に選出、3 月 5 日から選考を開始。
 2. 論文賞・奨励賞選考委員会について、公文富士
 夫会員を委員長に選出、3 月 7 日から選考を開始
 した。

会計：HP 担当者への謝金、学会 HP のサーバー管
 理費の支出の承認。

編集：3 月 26 日に次回会合の予定。3 号は通常号、
 早稲田シンポジウム特集号は 4 号（8 月）刊行の
 予定。久保（特集号編集委員長）、植木、卜部で編
 集中。

行事・企画：1. 1 月 31 日に学会賞・学術賞受賞者
 講演会を開催。次号通信への報告原稿を依頼した。
 2. 通信掲載の 2016 年学術大会の案内記事を作成。
 大会シンポジウムの主テーマについては、幹事会
 で決めた案を仮称として通信に掲載し、その後
 LOC で検討の上最終決定とすることとした。

渉外：1. JpGU 2016 年大会の学会主催セッション
 への投稿を促すとともに、両セッションのプログ

ラムを編成した。「ヒト—環境系の時空間ダイナミ
 クス」5 月 26 日（木）午前 2 コマ口頭発表セッショ
 ン、同日午後ポスター、コンビナーは小荒井、須貝、
 水野、米田。「活断層と古地震」5 月 23 日（月）4
 コマ、コンビナーは小荒井（第四紀学会）、後藤（活
 断層学会）、安江（地質学会）、近藤（地震学会）
広報：1. 学会 HP に掲載されている図の転載許可
 について対応を検討し、回答した。2. 『第四紀通信』
 第 23 巻 1 号の発行。第 23 巻 2 号の編集作業。3.
 会員 ML に情報を配信。4. 学会 HP 更新作業を行っ
 た。

事務局：1. 会員消息について報告。年度途中退会
 希望者への会費請求について検討した。2. 第 13
 回日本学術振興会賞受賞候補者については学会か
 らの推薦は行わないこととした。

日本学術会議：1. IGC（ケープタウン）への斎藤副
 会長の代表派遣。2. 国際学術団体加盟の分担金に
 ついての支出の見直しについて。

JpGU：代表選挙について、会員からは小口、奥
 村（人間圏）、原田（大気海洋）、川幡（地球生命）
 が当選。

INQUA 大会組織委員会：Quaternary International
 日本特集号のオープンアクセス（1 年間）の手続
 きと『第四紀通信』への案内記事の投稿について。
 QI への大会 Abstract 掲載は現在準備中。

＜審議事項＞

1. 日本学術会議土壌科学分科会、IUSS 分科会か
 らの依頼への対応について検討した。

2. 防災推進国民大会（8 月 27、28 日）、防災学術
 連携シンポジウム（12 月 1 日）への参加要請に関
 して防災学術連携体から提示された 8 月のワー
 ショップ「火山災害にどう備えるか」にパネラー
 として参加する案について検討、参加することと
 した。

3. ジオパークシンポジウムについて、共催および
 後援の状況、話題提供者に関する報告があった。
 シンポジウムの特集号を編集する予定。チラシ（小
 森幹事担当）を学会 HP などに掲載。シンポジウ
 ム終了後、懇親会を 18:00～20:00 に行う予定。

4. 功労賞受賞者について役員歴リストをもとに候
 補となる会員を検討した。会員以外の候補もあわ
 せて検討した。

5. 春恒社に導入予定の電子化システムの説明があ
 り、会員名簿の電子化について検討を行った。更
 新される春恒社との契約内容の確認とあわせて、
 Web 決済等のオプションについても次回の幹事会
 で検討することとした。

6. 「だいよんき Q&A」の質問についての返事とそ
 の方法について検討した。

7. 4 件の転載許可申請について、書類の不備への
 対応について検討した。

★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報幹事：齋藤めぐみ (memekato(at)kahaku.go.jp) 宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月 1 日刊行予定としていますが、情報の速報性
ということから、版下が出来た段階でホームページに掲載するよう努力しています。

奇数月 15 日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 国立科学博物館 地学研究部 齋藤めぐみ

〒 305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1 FAX : 029-853-8998

広報委員：那須浩郎・糸田千鶴・奥村公弥子 編集書記：岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://quaternary.jp/> から第四紀通信バックナンバーの PDF ファイル
を閲覧できます。

日本第四紀学会事務局

〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル 10 階

株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail : daiyonki(at)shunkosha.com 電話 : 03-5291-6231 FAX : 03-5291-2176